

〔 特 集 〕 ヘルスコミュニケーション を考えよう

～子どもの健康を守る情報を届けるために～

新型コロナ禍では、情報が多すぎて混乱を招く、いわゆるインフォデミックが問題となりました。子育て分野に関しても同様です。子どもの健康や医療に関する真偽不明の情報も氾濫するなか、専門家が正確な情報を保護者に伝える重要性はますます増えています。一方で、情報を届けるためには、どうすれば効果的に伝えられるかを考える必要があります。そのためには行動変容を促す方法やリスクの伝え方、ナッジを含めたヘルスコミュニケーションを学ぶことが重要です。

今回の特集では、子どもにかかわる保健医療職にとって重要な概念ですが、まだまだ十分に浸透しているとはいえないヘルスコミュニケーションについて、日本の第一線でご活躍の先生方に学術的に解説いただきました。また、保護者への実際のアプローチについて、テレビやSNS、オンライン相談などの多様なアプローチの実践について紹介します。そして、保護者だけでなく子ども自身のヘルスリテラシーを高めることも重要です。絵本やイベントなど、子どもへの働きかけの事例も紹介します。読者の皆さまの参考になれば幸いです。

(佐久総合病院佐久医療センター小児科／坂本昌彦)

